

## ● カロナールA

## 【使用上の注意】

## ⚠ 使用上の注意

## ⊗ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

1. 次の人は服用しないで下さい。
  - (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人
  - (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないで下さい。
 

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬
3. 服用前後は飲酒しないで下さい。
4. 長期連用しないで下さい。

## 【解 説】

1.
  - (1) 共通事項解説〔1〕参照
  - (2) 解熱鎮痛薬やかぜ薬によるぜんそく発作の既往歴のある人は服用しないよう注意が必要です。
 

アスピリンぜんそくは非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の服用により誘発され、ぜんそく症状の発症・増悪、時には致命的な重症発作を起こし、不幸な転帰をたどることがあるため注意が必要です。その発現率は、成人のぜんそくの約10%に該当するといわれています。

なお、医療用医薬品アセトアミノフェン(1回300mg以下)については、「アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者」を、「禁忌」の項から削除し、「特定の背景を有する患者に関する注意」の項において注意喚起を行うことになりました(医薬安発1012第2号2023年10月12日付)。しかし一般用医薬品は、添付文書等の情報をもとに自己判断で購入される場合がある等の状況も踏まえ、情報提供はより慎重に行う必要があるため、従来の添付文書の記載は変更しないこととされました。
  2. 共通事項解説〔2〕参照
 

「乗物酔い薬」が記載されている解熱鎮痛薬もありますが、「プロモバレリル尿素又はアリルイソプロピルアセチル尿素」を含有する場合に必要な注意のため、記載はありません。
  3. 一般的にアルコールは薬の作用や体内動態に影響を与えることが多いことが知られています。特に解熱鎮痛成分等はアルコールによって吸収や代謝を促進されることがあり、副作用や毒性の増強があらわれる危険性があるので、注意が必要です。
 

特にアセトアミノフェンは、アルコールの常飲者では肝臓の薬物代謝酵素が誘導され、肝毒性を持つ成分への代謝が促進されることにより、重篤な肝機能障害を起こすおそれがあります。
  4. 共通事項解説〔3〕参照

## ● カロナールA

### 【使用上の注意】



#### 相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。
  - (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人
  - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人
  - (3) 高齢者
  - (4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
  - (5) 次の診断を受けた人  
心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい
その他	過度の体温低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けて下さい。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。

### 【解 説】

1.
  - (1) 共通事項解説〔4〕参照
  - (2) 共通事項解説〔5〕参照
  - (3) 共通事項解説〔6〕参照
  - (4) 共通事項解説〔7〕参照
  - (5) 記載されている疾患の診断を受けた人は、本剤に配合されている成分により、病状が悪化するおそれがありますので、服用前に相談が必要です。
    - 心臓病、腎臓病  
アセトアミノフェンには腎臓のプロスタグランジン生合成抑制作用があるため、腎血流量の低下、浮腫、循環体液量の増加が起こって心臓の仕事量が増加し、心臓病を悪化させたり、腎臓病を悪化させたりするおそれがあります。
    - 肝臓病  
肝臓に障害がある場合、アセトアミノフェンによる薬剤性肝障害が報告されています。肝臓に障害がある人では症状が更に悪化するおそれがあります。
    - 胃・十二指腸潰瘍  
アセトアミノフェンが消化器粘膜保護作用のあるプロスタグランジンの生合成を抑制するため、胃の血流量が減少し、胃・十二指腸潰瘍を悪化させるおそれがあります。
2. 例示したような副作用症状が起こる可能性があります。これらの症状があらわれた場合には、症状の増悪や重篤な副作用への移行を未然に防ぐため、直ちに服用を中止し、服用している薬剤の成分等がわかる添付文書を持参の上、専門家に相談する必要があります。

下記のような重篤な症状があらわれたら、直ちに服用を中止し、医師の診療を受ける必要があります。

- ショック(アナフィラキシー)  
重篤な症状の解説〔1〕参照

## ● カロナールA

### 【使用上の注意】

皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死融解症 急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
薬剤性過敏症候群	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節(首、わきの下、股の付け根等)のはれ等があらわれる。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

3. 5～6回服用しても症状がよくなりえない場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

### 【用法・用量に関連する注意】

1. 用法・用量を厳守して下さい。

#### 2. 錠剤の取り出し方

右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押し、裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用して下さい。  
(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります)



### 【解 説】

- 皮膚粘膜眼症候群・中毒性表皮壊死融解症・急性汎発性発疹性膿疱症  
重篤な症状の解説〔2〕〔3〕〔4〕参照
- 薬剤性過敏症候群  
アセトアミノフェンにより起こることがあります。  
重篤な副作用の解説〔19〕参照
- 肝機能障害  
アセトアミノフェンにより起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔5〕参照
- 腎障害  
アセトアミノフェンにより起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔6〕参照
- 間質性肺炎  
重篤な症状の解説〔8〕参照
- ぜんそく  
アセトアミノフェンにより起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔10〕参照

3. 漫然と長期連続して服用すると副作用があらわれるおそれがあります。また、5～6回服用しても症状が続く場合には、他の疾患の可能性も考えられますので、服用を中止し、医療機関を受診するようご指導下さい。

1. 共通事項解説〔8〕参照  
2. 共通事項解説〔10〕参照

## ●カロナールA

【使用上の注意】	【解 説】
【保管及び取扱い上の注意】	
1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。	1. 共通事項解説〔11〕参照
2. 小児の手の届かない所に保管して下さい。	2. 共通事項解説〔12〕参照
3. 他の容器に入れ替えないで下さい。(誤用の原因になったり品質が変わります)	3. 共通事項解説〔13〕参照
4. 表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。	4. 共通事項解説〔17〕参照